

江戸前の海 学びの環づくり one-sheet 紹介 : ひ とめでわかる江戸前ESD

権利	Posted with approval of the Edomae Education for Sustainable Development (ESD) program of Tokyo University of Marine Science and Technology (TUMSAT).
URL	http://id.nii.ac.jp/1342/00001789/



江戸前の海 学びの環づくり

-持続可能な沿岸海洋のための教育 (江戸前ESD)

江戸前の海の課題

✓生活排水による栄養塩負荷

富栄養化→慢性的な有機汚濁(赤潮を含む)→貧酸素水塊(青潮)の発生→魚介類のへい死

✓外来生物の定着

船舶バラスト水→健全な自然生態系の存続×

✓過密な湾岸の利用

湾岸高層建築物→ヒートアイランド現象の増長
羽田空港滑走路延長をめぐる対立
漁業者・釣り人・自然保護団体間のおつれき



◆東京湾がもたらす様々な恵みを将来にわたって人と生きものが共有し享受する=持続可能性を実現するには、健全な湾環境と生態系を保持するための資源環境利用のしくみづくりが必須
◆私たち湾岸住民が、過去から現在にいたる東京湾の環境と生きものと私たちの暮らしのつながりを実感し、新たな関係性を構築することが必要

江戸前ESDでは、東京湾奥部(江戸前の海)沿岸地域において、東京海洋大学海洋科学部を事務局として、地域の参加を促しながら、
◆東京湾奥部の環境・生物・利用について多面的に理解し(知の共有)、
◆海辺を訪ね、海に依拠して生活する方々と意見や情報を交換し(体験の共有)、
◆資源環境の利用について合意形成をはかるワークショップをおこない(理解の共有)、
これからの持続可能な利用のありかたを考え、さらに世界の沿岸海洋の持続可能な発展へと視野を広げます。

目的

「江戸前の海」の持続可能な利用のありかたを考える

◆本学教員・院生を話題提供に派遣、
◆学生が運営スタッフとして参加

「江戸前の海 カフェ」 知の共有～江戸前の海を知る

江戸前の海を多面的に知るために、漁業者・釣り人、自然保護活動家・研究者などがそれぞれの立場から話題を提供し、気軽に語り合う場を開催する。

内容をリーフレットにして出版、頒布

◆練習船の活用
◆プログラム作成・実施に本学教員・学生がスタッフとして参加

「江戸前かわら版」 情報の共有

江戸前の海ESD活動の広報を行い参加を呼びかける(担当:広報)

◆本学教員を講師派遣、
◆学生が運営スタッフ参加

「江戸前の海 耳袋」 体験の共有～海を訪ねる

海辺を訪ね、乗船し、海を生業の場とする方々(例えば漁業者)から海や町の変貌、現状についてお話を伺い、江戸前の海の体験を共有する。

「江戸前の海 寺子屋」 理解の共有 ～ワークショップ

海の資源環境の利用について異なる意見を持つ人々がワークショップを開き、互いの立場や意見についての理解を進めながら、合意形成の道を探る方法を伝える。

東京海洋大学の理念

海洋の活用・保全に係る科学技術の向上に資するため、海洋を巡る理学的・工学的・農学的・社会科学的・人文科学的諸科学を教授するとともに、これらに係わる諸技術の開発に必要な基礎的・応用的教育研究を行う。

「江戸前ESD」推進協議会の活動計画

—カフェ/耳袋/寺子屋を巡りながら—

